

<p>1. 事業細目：バス資源抑制対策実験事業費 2. 研究名：刺網によるオオクチバスの捕獲調査 3. 研究期間：平成元年度～3年度</p>	<p>予算額 5,000千円 予算区分 国 委 4. 担当者：大江、桑村、太田（滋）</p>
<p>5. 目的 オオクチバスの捕獲について、刺網の色彩の違いによる動向と操業方法について検討し効果的な捕獲についての知見を得る。</p>	
<p>6. 方法</p> <p>(1) 試験漁具： 網糸テグス2号、目合85mm、網丈1.2m(15掛)、網地100間、色彩透明（グレー系）の刺網を基にタイロンジャパン(株)のインスタント染料「マルチ」で黄、赤、茶、青、緑、黒の6色に染色</p> <p>(2) 調査時期 91年1月31日から2月8日にかけて3回実施した。</p> <p>(3) 設置場所と方法</p> <p>第1回 大津市下坂本地先 湖岸50～60m沖合に岸とほぼ平行に設置 青、緑、黄、透明、赤、茶、黒の順に14把</p> <p>第2回 大津市におの浜地先 湖岸50mと100m沖合に岸とほぼ平行に設置 (岸側東より)赤、透明、青、緑、黄、茶、黒 (沖側東より)黒、茶、黄、緑、青、透明、赤</p> <p>第3回 大津市におの浜地先 湖岸10mより沖合向きに同色の2把設置 (東側より)黄、緑、透明、黒、赤、青、茶</p>	
<p>7. 結果の概要</p> <p>○網地の色彩の違いによる捕獲状況 捕獲試験は、91年1月30～31日、1月31日～2月1日、2月7～8日にかけて3回実施した。 刺網を設置した場所の湖底は下坂本地先が砂泥質、におの浜地先が泥質で水深が各々2～2.4m、2.5～3.8mのところであった。 羅網したオオクチバスの総尾数は1次が25尾、2次が134尾、3次が103尾であった。 色彩別の羅網総尾数からは、赤88>透明56>黄=青36>緑35>黒7>茶4尾の順となった。 場所的な関係や刺網の配列等も考慮し、3次にわたる各々の順位点数から見ると赤>黄>青=緑>透明>黒>茶の順となった。 このようなことから、いずれも暗色よりも明色の方がオオクチバスの捕獲効果が高いことがわかった。</p> <p>○設置場所による羅網状況 第2、3次調査では、湖岸と沖合側に分け羅網状況を見ると、2次では82%が、3次では96%が湖岸側に羅網している。 なかでも、3次調査では、湖岸より30～40mのところが一番多く羅網しており、岸に近づく程、また沖合へ行く程減少した。このこと</p> <p>は、2次調査で設置した刺網の羅網状況と合致する。</p> <p>○羅網位置 網丈1.2mを上、中、下の3段階に分け、オオクチバスの羅網位置を調査すると90%が下段にかかっており、実際の操業段階では、網丈が70%程度になると云われ、羅網位置より遊泳層を推測すると湖底上30cm位のところになる。 しかし、網丈を余り短くすると大型魚が羅網した場合、沈子網が浮子網を巻き込む恐れがある。</p>	

8. 主要成果の具体的データー

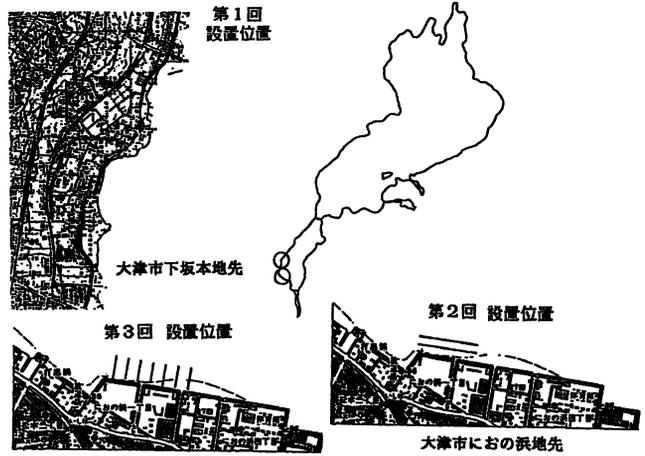
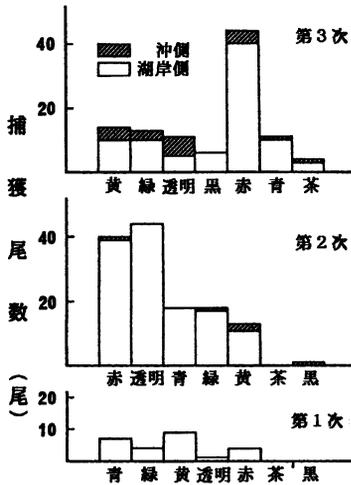


図1 刺網設置場所

図2 網地の色彩の違いによる捕獲動向

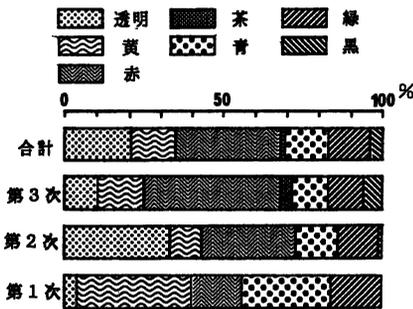


図3 網地の色彩の違いによる捕獲割合

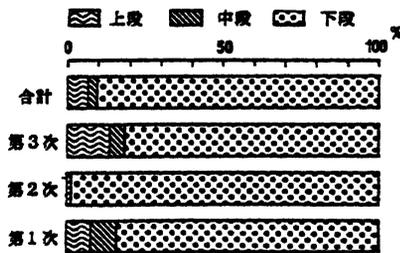


図5 オオクチバスの羅網位置

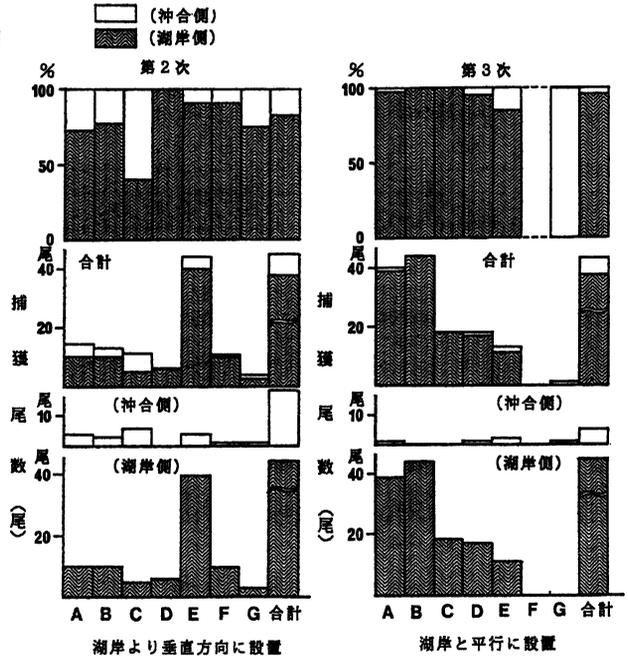


図4 網地の設置場所の違いによる捕獲状況

9. 今後の問題点

漁柴や物陰等を水中に敷設し、これに集まる外来魚を刺網や曳網で捕獲する漁法の可能性について検討が必要である。

10. 次年度の具体的計画

漁具、漁法についての補完調査
外来漁資源抑制対策マニュアルの作成